謹賀新年

2016年(平成28年) 1月

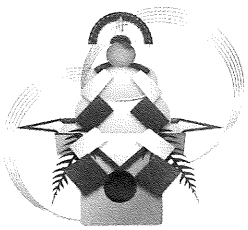
たかつき
地域力
第27号

≪発行≫
高月地域づくり協議会
広報研修委員会
委員長 友田 昭夫

≪事務局≫
高月公民館
TEL (0749) 85-5204
FAX (0749) 85-5744

高月地域のようす
(平成27年12月1日現在)

人口	
男	4,927人
女	5,061人
合計	9,988人
世帯数	3,292世帯



年頭ご挨拶

去年(こぞ)今年(ことし)貫く棒の如きもの (虚子)

高月地域づくり協議会
会長 西坂重和

皆様には、輝かしい新春を迎えられ大慶に存じあげます。

昨年は、本協議会が設立して早や五年目にあたりました。これまでの数々の実績をもとに、二面にお示ししますように、それぞれの部会を中心に、地域住民の安全と安心、健康増進と教育・文化の高揚、そして地域振興を目指して、多くの事業を展開しました。

いずれの事業も大きな成果を上げることができましたのは、皆さんの地域への篤い思いと格段のご協力の賜物と、厚く御礼申し上げます。

さて、表題に掲げました『去年(こぞ)今年(ことし)』とは、年のあらたまる一瞬に思いを凝らし年の移り変わりを改めて実感していう新年一月に用いられる「季語」だそうです。

そして、この虚子の句を詩人の大岡信さんは、「虚子は、そうした季語のもつ思いを超えて、大切なのは、去年という、今年という年をも、『貫いている』ものを捕まえることであると詠っている。まさに虚子は、悠々と季語を超えてしまっているのだ。」と評しています。

では、私たちは、どんな思いで受け止めたらいいのでしょう。

私たちの地域にとっても、この新年の厳粛なるべき瞬間とはいえ、長い時の一つの単位に過ぎないものとして、貫いているものが必要です。

その「貫く棒」の役割を担っているのが、本協議会であり、たいと願うものです。

本協議会設立の目的は「これまで培ってきた観音の里として、穏やかで誠実な精神のもと、共助と協働を柱として地域の抱える課題について考え、未来に希望と活気をもたらし、誰もが住み続けたいと思える地域づくり」(会則第三条)です。

微力ながら会長の重責をお受けするにあたり、「相変わらずの進展を目指したい」と述べました。

『相変わらず』という言葉は、「以前と同様に」という思いと、「変革に価値を認め始めた」という二つのニュアンスを併せ持っています。

合併して六年が経ち、これに伴う種々の変化に加え、時代の要請に応えるかのように合理化、簡素化、都市化などが急速に進んでいます。

しかし、地域は『相変わらず』悠然と元気に生きているのです。

なぜなら、ここに漂う地域固有の香りは、地域が長い時をかけて育んできたものであり、社会の変化に移ろう上辺の営みとは無縁であるからです。

とは言っても、幾つもの課題があります。

市の重要施策にいう北部振興も一向に形が見えてきません。北部のリーダー的役割を発揮することも大切です。

また、中学校跡地活用についても、提言や市長をはじめ市幹部を招いての意見交換会でも、市の方針は伝わってきませんでした。今後とも粘り強い働きかけが必要です。

高月地域づくり協議会は、その他の課題に対しても誰もが安心して暮らせる地域づくりに貫く棒として、活動して参ります。

そして今、真剣に求めているのは、地域で一緒になって郷土の文化を愛し、創ってくれる仲間である地域の皆さんの力なのです。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は
新☆地域づくり計画書を作成します

地域づくり計画書とは

地域が住民にとり満足度の高い社会になるためには、人口減少、少子高齢化、コミュニティの希薄化など日本社会の問題から生じてくる多くの課題に対し、行政と地域住民が力を合わせて解決のための対策に取り組むことが求められている。

住民自らが地域の様々な資源や特色を生かしながら、地域の将来がどうあるべきかを話し合い、地域で困っていることを困らないようにするための自主的な取り組みが地域づくりの活動だ。

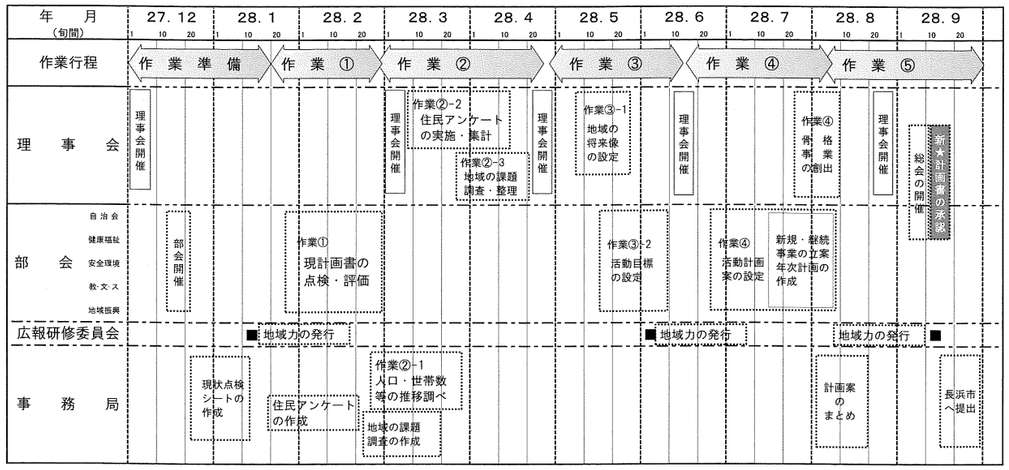
この活動を実効性のあるものにするために地域の実情や課題を把握し、少し長期的な視点に立ち、解決のための活動や事業を定めたものが地域づくり計画書だ。

高月地域づくり協議会は、平成二二年長浜市との合併の翌年三月に、高月地域の人々が今まで以上に活き活きと暮らせるように地域内の各種団体や個人が集まり発足した「まちづくり」のための住民組織で、発足時に策定した第一次五ヶ年計画書に基づき毎年多くの事業を実施している。

ところがこの計画書が、平成二八年度で実施期間が終了することから、今年新たに次の五年間の活動指針となる第二次高月地域づくり計画書を策定することとなった。

新計画書策定に向けたプロセスは下記のとおりで、今秋の完成を目指して作業が始まった。

■ 新☆高月地域づくり計画書 策定スケジュール



■新計画書の名称と実施期間は

名　称

新☆高月地域づくり計画書

絆と安心のプログラム

第2次5ヶ年(H29～H33)計画

実施期間

平成29年度から平成33年度

作業① 現計画書を点検・評価します

現在、第１次計画書に基づき実施している事業や計画された事業について、次のポイントで点検と評価を行います。

- 事業の目的が計画に沿っているか
- 事業の内容、役割分担、進め方は適切か
- 事業が住民の理解を得られているか、参加状況は
- 事業の費用対効果は適正か
- 今後も継続すべき事業か

作業② 地域の現状と新たな課題を調査します

当初から５年が経過して、高月地域の状況も変化をしています。地域の現状を知るために次の調査で課題を把握して計画書策定の基礎資料にします。

- 人口、世帯数、産業状態など推移を調べます
- 住民アンケートで地域の生活意識を調べます
- 自治会や団体が抱える課題を把握します

作業③ 地域の将来像や活動目標を定めます

調査によって見えてくる地域の現状や課題から目指すべき地域の将来像、活動目標を決定します。

- 高月地域の人びとが共感できる地域の将来像（まちの姿）を定めます
- 地域の将来像を具体化するための活動目標を定めます

作業④ 活動計画(事業等)を企画・立案します

活動目標の実現に向けて、実施したい事業のアイディアを出し合い、活動計画を創ります。

- 活動目標に沿った具体的な事業を提案します
- 継続する事業、新規の事業を決定します
- 高月らしい事業を創り出します
- 事業実施の年次計画を立てます

作業⑤ 新計画書を認定します

- 計画案をまとめ、新計画書を作成し地協総会で承認を受けます
- 新☆高月地域づくり計画書を長浜市に提出します

地域づくりは、住民みんなで創るもの
新計画書にあなたの声と協力を！

高月地域づくり協議会の主な活動・事業

平成２７度事業から

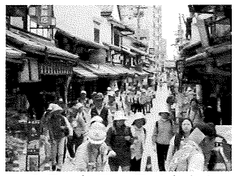
自治会部会

▲8月、市北部振興局へ地域課題改善要望

高月地域づくり協議会の部会は各自治会の代表者で構成される。自治会長で構成される自治会部会は過疎化や高齢化から起こる課題について、地域課題改善要望活動や連合自治会活動の活性化を中心に活動している。

- 地域課題改善要望活動
- 連合自治会活動の活性化

健康福祉部会


▲6月、初夏の長浜市街をウォーキングで散策

高月地域づくり協議会の部会は老人クラブや社協、福祉団体などの活動を通して、住民の健康や福祉に関する研修会や高齢者介護の実践を目指している。

- 夏、秋の健康ウォーキング
- サロン活動を考える会議
- 福祉や安全な暮らしの研修会

安全環境部会

▲4月、子どもたちと一緒に通学路の安全点検

高月地域づくり協議会の部会では生活環境の保全や安全で快適な街づくりを行っている。

- 小学校通学路安全点検活動
- 地域防災研修会
- 地域エコフォスター作戦

教育・文化・スポーツ部会

▲10月、武田邦彦氏文化講演会

高月地域づくり協議会の部会では学校や文化、スポーツ団体などの代表者による中学生への学習支援や地域の教育力の高揚を目指す活動を実施する。

- 中学生への学習支援、地域寺子屋
- 文化講演会、人権研修会
- 公民館放課後児童クラブの開設

地域振興部会

▲11月、にぎわいを創る秋のあったかつき祭り

高月地域づくり協議会の部会では地域内の農業、観光業を活性化し、地域資源を生かした地域ぐるみの観光振興策を目指す。

- 新観光事業企画会議
- 農業育成会議と農業問題講演会
- 若者によるまちづくり活動

小学生全員の作品を展示

一月二〇日（水）～二月一〇日（水）

高月公民館では今年も新春の恒例事業となった小学生書き初め展を開催する。

この書き初め展は、高月地域内の富永、高月、古保利、七郷の四小学校に在籍する一年生から六年生の児童五三五名が冬休みの課題で製作し学校へ提出した作品が展示される。

一、二年生は硬筆で、三年から六年生は毛筆で仕上げた書き初めで公民館一階ロビーを埋めつくす数の展示は見応えのある書道展となる。

作品の優劣を決める審査はされないが、どの作品も、子どもたちが新しい年の始まりに一文字ごとに思い込めた力作揃いだ。家族の皆さんはもちろんだが、地域の皆さんも子どもたちの正月らしい、夢のある作品をぜひご覧いただきたい。

■小学生書き初め展

●とき

平成２８年1月２０日（水）～2月1０日（水）

午前９時～午後５時

（期間中の月曜日は休館日です。）

●ところ

高月公民館1階ロビー

お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも、みんなで見に来てください

編集後記

今年は申年

一年が過ぎるのは本当に早いものではまた新しい年を迎えた。長浜市と合併して七年目、高月地域づくり協議会発足から六年目となる一年の始まりだ。▼今年は申年。「申」（「しん」と読む。）は十二支では九番目で、「漢書律暦志」によると草木が伸びきり、果実が成熟して堅くなっていく状態を表していると解釈されている。動物では『猿』があてられている。▼桃栗三年、柿八年…ということわざがあるが高月地協も今年の三月で丸五年が経過する。そろそろ果実を付ける頃合いなのだろが、地域に根付いているのかさえ心配なところだ。▼新地域づくり計画書の策定作業が始まる。これまでの五年間をもとに柿や柚のごとく実を生らす計画書にしたいものだが、猿猴取月とならないようじっくり考え、地域の課題に取り組む計画書を期待する。